

7月5日（土）住民自治組織「大山すみい会」が主催した老松地区「榎瀬公園」斜面の草刈りに**地域貢献活動**として9名の生徒が参加しました。大人が草刈り機で刈った草を集め、軽トラックに積むのが主な作業でしたが、草の量が多く、予想以上にハードでした。軽トラに同乗し、草の廃棄を手伝った生徒もいます。草を降ろす作業に中学生の労力をアテにしていた参加者もいたと聞きました。戦力として頼られるようになったことは喜ばしいことです。主催した「大山すみい会」の方はもちろん、参加していた方からもお褒めと労いの言葉をいただきました。参加した生徒の感想を紹介します。

9年生 河津 優心さんの感想

中学生が9人いました。人数は少なかったけど2時間で終わって良かったと思います。終わった後にたくさんの人から「ありがとう」と言ってもらえたので嬉しかったです。また、ボランティアに参加したいです。



9年生 梅村 優奈さんの感想

草を坂の上から下へ運ぶ作業が難しかったです。暑くて大変だったけど、地域の人たちがやさしく声をかけてくれたので頑張れました。このボランティアを継続している地域の人たちを尊敬します。またボランティアに参加できることがあったら参加したいと思います。



7月27日（日）に行われる「第62回大分県吹奏楽コンクール 小編成部門 中学生の部」に向けて激励メッセージの寄せ書きを作成します。今回は、期末育友会のタイミングでもあったため、保護者にも協力をしてもらいました。中学校の教職員、小学校の教職員、南地区学校支援センターの職員、保護者あわせて現在30枚のメッセージが集まっています。メッセージを書いていただいた保護者のみなさん、ご協力ありがとうございました。自主的に書きたいと申し出る生徒はメッセージを募集中です。貼り合わせて完成した寄せ書きは「あいさつ広場」に掲示します。部長の決意表明は、次号で紹介します。

生徒たちは期末テストが終わり、「できた」「分からなかった」「間違えた」と自分の解答に一喜一憂していることでしょう。

テストで正解できない（失点してしまう）パターンは「理解していなかった」「暗記していなかった」「ケアレスミスをした」の3つに大別されると思います。「ケアレスミス」はさらに細かく分類できます。自分の失点は3つのどれに該当することが多いのか、傾向を分析することが対策につながります。テスト勉強を「どのような方法で、どのくらいの時間をかけて取り組んだか」。この過程も大切です。さらに大切なのは結果が出てからです。そもそもテストは、生徒たちが学習した内容をどのくらい理解しているか、身に付けているかを確認するためのものです。テストで理解できていない、身につけていないことが分かったら、そこを重点的にやり直せばいいわけです。そのような視点でお子さんに声掛けをしていただければ…と思います。さらに、家庭学習の取り組みについての評価とアドバイスをしてください。一方的な説教ではなく、例えば、「時間の使い方を〇〇した方がもっと効率よくできたと思うよ」といった建設的なアドバイスをお願いします。

テストは教員が自分の授業でどのくらいの理解を得られているのかを見るためにも使います。言い換えれば生徒たちによって教員もテストされるわけです。テスト結果（生徒の理解度・定着度）によって教員は自分の授業を見直し、改善を図ります。